

労働市場構造と企業内部労働市場の雇用慣行が女性の就業と 出産に与える影響の日米比較

永瀬 伸子 / NAGASE, Nobuko

生活科学部人間生活科学

■専門分野 労働経済学、社会保障論
■キーワード 女性の労働供給、仕事と家庭の両立、社会的保護

連絡先 http://www.soc.ocha.ac.jp/soc/teacher/nagase_nobuko.html

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

日本的雇用と女性の就業と出産、そして政策の効果をミクロデータを用いて実証的に研究しています。女性のキャリア形成と家族形成が阻害される要因は何か、新しい日本の雇用の在り方を研究しています。2013 - 2014 はサバティカル（および安倍フェロー）を得て、ハーバード大学とコーネル大学で半年づつ労働経済学および人口経済学の研究をし、米国の研究者と研究交流をいたしました。文部科学省の近未来事業で行った、女性のキャリア形成と男性の育児参加、子どものウェルビーイングをまとめる際に、米国との比較の視点を入れたいと考えています。

■応用・将来展望

文部科学省の近未来事業で行った女性のキャリア形成と家族形成の研究をさらにすすめたいと考えております。そのためには、実証研究をすすめるとともに、学際的な連携が必要であり、また企業や職場、保育や家庭の方々からの情報収集も必要だと思っています。競争力、経済生産性を担保しつつ、今の日本の雇用の在り方を大きく変えるにはどうしたら良いかを考えており、是非多くの方にプロジェクトに参加いただきたいと考えております。また国際比較の視点も取り入れていきたいと考えております。

■活動実績

主要研究成果

- ・永瀬伸子（2014）「育児短時間の義務化が第1子出産と就業継続、出産意欲に与える影響：法改正を自然実験とした実証分析」、『人口学研究』、第37巻第1号、p27-53。
- ・永瀬伸子・守泉理恵（2013）「第1子出産後の就業継続率はなぜ上がらなかったのか：『出生動向基本調査』2002年を用いた世代間比較分析」『生活社会科学研究』20巻19 - 36頁。
- ・永瀬伸子（2013）「女性の就業、出産の日米比較と社会保障制度への示唆」『年金と経済』第31巻4号 3 - 24頁。
- ・永瀬伸子（2013）「日本女性の活躍と子ども・子育て3法」『週刊社会保障』2013年6月24日号、No.2732 50-55頁。
- ・永瀬伸子・山谷真名（2012）「民間大企業の女性管理職のキャリア形成－雇用慣行と家庭内分担－」『キャリアデザイン学会』第9巻。
- ・永瀬伸子（2012）「第1子出産をはさんだ就業継続、出産タイミングと夫婦の家事分担－北京・ソウルと日本の比較－」『人口問題研究』第68巻3号。
- ・永瀬伸子（2011）「2000年以後の男女の失業構造の分析－労働力調査のパネル構造を用いて構造変化を分析する－」『統計と日本経済』第1巻、第1号、2011年4月 91頁 - 111頁
- ・永瀬伸子（2011）1990年代から2000年代に大卒女性の就業継続行動はどう変わったか：27 - 33歳を対象とした聞き取り調査より『生活社会科学研究』お茶の水女子大学、17号、2011年1月

